

看護研究 第34巻 総目次

2001年(第1号～第6号)

〔表示は、題名、著者名、(号)掲載ページ〕

焦点◆看護研究方法としての疫学的研究方法 疫学調査から EBN へ

- 看護研究における疫学的研究方法の意義と展望—EBN
における研究方法論。中野正孝, (1)3-12.
- 疫学的方法とは—集団的科学研究方法のエッセンス。
野尻雅美, (1)13-26.
- 看護研究への EBM/EBN の導入。阿部俊子, (1)
27-34.
- 【疫学的研究方法の実際：横断研究】千葉市における痴
呆性高齢者およびその家族の支援に関する調査研究。
櫻庭けい子・瀧口起美代・古屋晴子・石田美由紀・
漆崎育子・山本多喜子・中村栄子・西村明・中野正
孝, (1)35-49.
- 【疫学的研究方法の実際：ケースコントロール研究】小
児肥満予防のための地域看護的介入に関する基礎的
研究。斎藤好子・水口浩光・嶋崎典子・井上知美・高
橋知佐子・西部美由紀・森川有子, (1)51-57.
- 【疫学的研究方法の実際：コホート研究】「ほけ」のリス
ク要因について—静岡県 N 町・K 村における 1985
年健診コホートの 10 年後の生命・生活予後。野尻雅
美・中野正孝・宮崎有紀子・島田陽子・島正之・平
野秀子・小林美保子, (1)59-68.
- 【対談】3 編の論文をクリティークする—バイアスにどう
対処するかを中心に。中野正孝・野尻雅美, (1)69-76.

焦点◆看護研究と倫理 (企画：南裕子・片田範子)

- Trends in the Ethics of Conducting Nursing Re-
search with Human Subjects. Anne J. Davis, (2)
3-8.
- 看護研究の倫理審査体制づくり。南裕子, (2)9-18.
- 看護研究の倫理審査—人間を対象とした看護研究につ
いて。片田範子, (2)19-27.
- 看護教育者の課題—研究倫理からの問いかけ。野嶋佐
由美, (2)29-34.
- 研究発表・論文公表時の倫理的配慮と研究者の倫理。稲
岡文昭, (2)35-40.

- 小児とその家族を対象とする看護研究における倫理的
配慮。内田雅代, (2)41-47.
- 研究対象者から同意を得る上での倫理的配慮。近澤範
子, (2)48-54.
- 看護教育研究において生ずる研究対象者へのリスクと
その配慮。宮島朝子, 55-62.
- がん看護学研究において生ずる研究対象者へのリスク
とその配慮。内布敦子, 63-69.
- 〔資料〕ヘルシンキ宣言—ヒトを対象とする医学研究の
倫理的原則(2000 年 10 月 7 日)。世界医師会(日本
医師会・訳), (2)70-72.

焦点◆臨床看護に関する研究の動向と 今後の課題 (IV) 20 世紀から 21 世紀へ向けて

- 母性看護の研究の動向と今後の課題。石村由利子・三
枝清美・村本淳子・永見桂子・澤井早苗・今田葉子・
前原澄子, (3)3-17.
- 家族看護研究の動向と今後の課題。鈴木和子, (3)
19-26.
- 人間の生物学的側面に焦点を当てた看護研究の動向と
今後の課題。菱沼典子・櫻井利江, (3)27-34.

焦点◆IT 時代における看護研究の取り組み 次世代型遠隔看護システムの構築に向けて (企画：川口孝泰)

- 新しい看護のパラダイムを拓く遠隔看護
(telenursing)—その意義と世界の動向。川口孝
泰, (4)3-8.
- 次世代型遠隔看護システム構築に向けての取り組み。
川口孝泰・太田健一, (4)9-15.
- 指尖容積脈波のカオス解析による日周期性疲労の評価—
遠隔看護におけるバイタル情報の活用。川口孝泰・
東ますみ・太田健一・鶴山治, (4)17-24.
- 患者の苦痛表情分析による緊急性評価法—ビデオメー
ルを用いた遠隔看護システムの構築。太田健一・野
村典子・太田知佳子・川口孝泰, (4)25-37.

電子メールを通じたケアの有効性—在宅における癌患者家族に対する経験を通して、鮫島輝美・杉本初枝, (4)39-46.

社会還元に向けた研究成果の特許申請と TLO の活動について、長富弘充・野村興一, (4)47-53.

焦点◆臨床看護に関する研究の動向と 今後の課題 (V)

20 世紀から 21 世紀に向けて

臨床看護技術研究の意義と今後の課題、川島みどり, (5)3-10.

基礎看護技術の研究の動向と今後の課題、太田節子, (5)11-20.

焦点◆看護実践・理論・研究をつなぐ アクションリサーチ (企画：遠藤恵美子)

看護におけるアクションリサーチ総説、嶺岸秀子・遠藤恵美子, (6)3-15.

看護におけるアクションリサーチ：ミューチュアルアプローチの理論、遠藤恵美子・新田なつ子, (6)17-22.

看護におけるアクションリサーチ：ミューチュアルアプローチの方法、遠藤恵美子・新田なつ子, (6)23-32.

〈ケース・スタディ〉末期がん患者・家族の看護ケアの改善をめざして—ミューチュアルアプローチのアクションリサーチ、遠藤恵美子・千崎美登子・新田なつ子・齋藤亮子・嶺岸秀子・諸田直実・久保五月, (6)33-44.

看護におけるミューチュアルタイプのアクションリサーチを推進する力、齋藤亮子・遠藤恵美子・千崎美登子・桃園忍・久野多恵・西又玲子・赤羽寿美, (6)45-51.

看護におけるアクションリサーチ：エンハンスメントアプローチの理論と方法論、稲吉光子, (6)53-61.

〔原著論文〕

整形外科診療所が高齢者にとって果たしていた役割とその背景—高齢者の「居がい」を支える保健医療の場と看護を求めて、竹崎久美子, (3)37-46.

看護者が認識する「よい看護」の要素とその過程、武村雪絵・菅田勝也, (4)55-65.

痴呆老人デイケアにおける関わりの「場」の分析、堀内園子, (5)31-39.

〔研究報告〕

老年者への強酸性電解水による足浴後の皮脂量と角質水分量への影響、新垣さおり・神谷文美代・島野陽

子・村上睦始・石井潤一・柴山健三, (2)73-78.

日本における看護職の患者擁護に関する概念、本間チェン蘭子, (3)47-63.

“Safety & First Aid Check”を用いた応急処置教育プログラムの効果—1 歳 6 ヶ月児の保護者を対象として、丹佳子・友定保博, (5)41-51.

誘導イメージ法の健康青年に対する精神・心理的影響に関する研究、黒田真理子・小西美智子・西村良二, (5)53-60.

19 世紀のイギリスに近代看護婦を誕生させた社会的背景、河津芳子, (6)73-79.

〔実践報告〕

経皮内視鏡的胃瘻造設術導入前後の看護と介護者の評価、仁志マサエ・曾根ひとみ・田上光代・仁尾美紀代・蛇目絹江, (4)67-73.

〔海外報告〕

米国におけるがんサポート グループ活動の実際と看護職の役割、福井小紀子, (3)65-71.

〔特別記事〕

質的研究のためのデータ収集をめぐる諸問題、Renée C. Fox (萱間真美・訳), (5)23-29.

〔書評〕

私たちの知らないフィールドワーカーの有り様がみえてくる、『フィールドワークの経験』, [評者] 坂田三允, (2)90.

〔連載 看護理論の検証〕

①看護学における理論検証—意義・定義・方法、舟島なをみ・亀岡智美, (1)82-85.

②経験的検証の特徴・評価基準・実際、亀岡智美・舟島なをみ, (2)79-85.

③実践への活用に基づく検証の特徴・評価基準・実際、亀岡智美・舟島なをみ, (3)81-87.

④批評的推論に基づく検証の特徴・評価基準・実際、亀岡智美・舟島なをみ, (4)83-88.

〔連載 21st Century Message from World
to World〕

Information and Communications Technology :
Nursing's Future Role. Paula M. Procter, (3)
73-80.

Nursing as an Autonomous Profession. Mariah Sny-
der, (4)79-82.

Genetic Nursing. Janet K. Williams, (5)67-74.

Ethical Dimensions of Action Research. Alison
Morton-Cooper, (6)67-71.

〔連載 看護研究に役立つソフト・IT活用術〕

猫田泰敏

①データの分析に活かす。(5)75-82.

②アイデアの発想・整理に活かす。(6)81-87.

〔健康科学の未来を拓く—研究所紹介〕

①文部科学省放射線医学総合研究所。(1)81.

②財団法人労働科学研究所。(2), 86-87.

③独立行政法人国立健康・栄養研究所。(3)88-89.

④高齢者痴呆介護研究・研修東京センター。(4)74-75.

⑤兵庫県立看護大学附置研推進センター。(5), 64-65.

⑥健和会臨床看護学研究所。(6)62-63.

〔Book Notice〕

(1)78-79, (2)88-89, (3)90-91, (4)76-77, (5)62-
63. (6)64-65.

〔Research News from Nature〕

(1)34・57・89, (2)34・62, (3)36・80, (4)66・78・
82, (5)61・66・74, (6)66・79.

NURSING BOOK INFORMATION ————— 医学書院

質的研究実践ガイド 保健・医療サービス向上のために

Qualitative Research in Health Care (Second edition)

編集 キャサリン・ポーブ ニコラス・メイズ

監訳 大滝純司

●B5 頁116 図3 表16 2001年
定価(本体2,200円+税) 送料実費
[ISBN4-260-33160-4]

質的研究が有効なのはどんな問題を、どのような目的で研究するときか。それは、量的研究とは相容れない手法なのか。実際に用いる場合に、あらかじめ知っておかなければならないことは何か。保健・医療の領域でますます重要性を増している質的研究について、その実践と評価に必要な知識と技法の要諦を、コンパクトかつ明快に示す。

臨床看護研究の進歩 Vol.12

編集 「臨床看護研究の進歩」編集室

●B5 頁212 2001年
定価(本体3,600円+税) 送料実費
[ISBN4-260-33135-3]

臨床看護研究の進歩を願って刊行を続ける年刊誌。12冊目となる本書にはREVIEW2篇、総説2篇、原著10篇、Nursing Report7篇、論考1篇、シンポジウム(がん看護)3篇を掲載。さらに文献SELECTION in 2000を付した。さまざまな研究のあり方を学ぶことができる。